

さつまの女性たち

— 江戸から昭和 —

令和3年

1/26 (火) - 5/16 (日) 会場 黎明館3階 企画展示室

一般に歴史について語られるとき、関ヶ原の戦いで敵中突破をした島津義弘のように、男性の活躍が注目される傾向があります。しかし、その男性が活躍できた背後に、妻として夫や家を支え、母として息子たちを育てるなどした、女性たちの存在があったことを忘れることはできません。

そこで本企画展では「夫を支え、家を守った女性」「たくましく生きた女性」等の視点から、鹿児島県の女性たちがどのように生きてきたのか、江戸時代から昭和前期の関連する資料を基に紹介します。

1 章

江戸時代の島津家当主周辺の女性たち

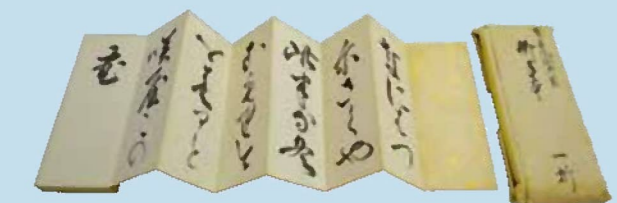
鎌倉時代から江戸時代初期は、女性にも所領が与えられました。しかし、次第に男性だけが所領を相続するようになります。その一方で、島津家は徳川將軍家と婚姻を重ねることで、次第にその力を強めていきました。江戸時代初期の島津義久・義弘、中期の島津重豪、後期の島津斉興、それぞれの周辺にいた女性たちを紹介します。



広大院(島津重豪女・徳川家齊室)肖像
玉里島津家資料

島津義久女・新城に所領を与えた目録

島津久元他二名連署知行目録 個人蔵



寛章院(島津斉興室)手書きの手本 玉里島津家資料

2 章

近世の市井の女性たち

武家以外の女性たちについては、記録が多くありません。藩外の人々が薩摩藩を訪れて記した記録や、江戸時代後期に奄美大島に滞在した名越時敏の記録を基に、そこに描かれた女性たちの様子を紹介します。



『南島雑話』よりティルの図(部分)
鹿児島大学附属図書館蔵

女性が頭に物を載せて運ぶ様子を描いた
谷口午二筆「みりの」



高山彦九郎筆 和歌短冊
個人蔵

3 章

幕末の女性たち

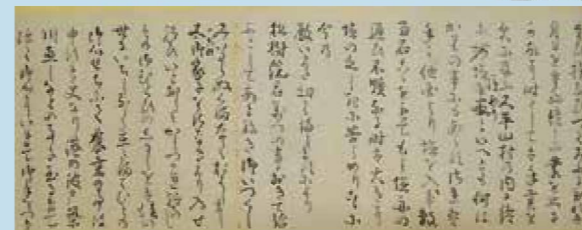
幕末、種子島家当主・種子島久道の夫人だった於隣(松寿院)は、夫や養子を次々と亡くしたため、自身が島を統治しました。また、国学への関心の高まりに伴って和歌を学び、山田歌子や税所敦子など和歌を通して薩摩藩士と結ばれ、和歌で仕える女性も出ました。加えて大奥に仕える女性が昇進する様子や、篤姫(天璋院)ゆかりの資料も紹介します。

篤姫(天璋院)が典姫(島津斉彬女)に贈った

雛飾り 個人蔵



松寿院肖像(部分) 熊野神社蔵



後醍醐院真柱筆「自凝舎遺稿」から松寿院に関する部分

企画展関連イベント

学芸講座(展示解説講座)「さつまの女性たち」

【日時】2月28日(日) 13:30~15:00

【講師】黎明館 主任学芸専門員 新福大健

【会場】黎明館2階 講堂(定員125名)

【申込方法】事前申込制

※申込方法の詳細はホームページもしくは学芸講座の案内チラシをご覧ください。

※事前申込が定員に満たない場合、空席を対象に先着順で受け付ける場合があります。

展示解説

【日時】2月28日(日) 15:20~16:00

3月20日(土・祝) 13:30~14:10

4月24日(土) 13:30~14:10

5月8日(土) 13:30~14:10

【講師】黎明館 主任学芸専門員 新福大健

【会場】黎明館3階 企画展示室

※事前申込は必要ありませんが、常設展示入館料が必要です。

4 章

明治から昭和の女性たち

玉里島津家2代当主・島津忠済の夫人だった島津田鶴子は、夫の没後に幼くして当主になった息子を支えて家を守ります。また、丹下梅子は日本の女性で最も早い時期に博士号を取得した人物です。明治中期に鹿児島島に赴任した本富安四郎が記した『薩摩見聞記』から、市井の女性の姿を紹介し、加えて戦後75年を経過したことから、玉里島津家資料から戦中、戦後の苦難の様子を紹介します。



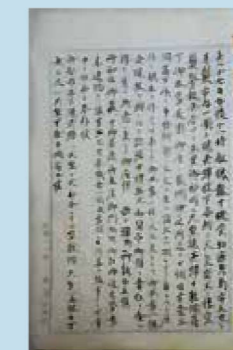
島津田鶴子筆「故郷のしをり」 玉里島津家資料



丹下梅子写真



丹下梅子使用の袴



「昭和二十年玉里出張所日誌」より
玉里邸焼失の部分 玉里島津家資料

玉里邸焼失から1年に当たっての

島津田鶴子筆和歌書付 玉里島津家資料

